

一人一人が世界の「起点」

旭小5年生がSDGsを学ぶ

延岡市立旭小学校
(大崎陽子校長、46
4人)は9日、SDG

s(持続可能な開発目
標)についての理解を
深めようと、講演会を
開いた。5年生77人が
参加した。

講師は、日向市鶴崎
西のシンク・オフ・ア
ザース代表、難波裕扶
子さん(48)。SDGs
啓発の県内第一人者
で、2016年1月から
全国各地で活動を続
けていた。

難波さんによります、W
WF(世界自然保護基
金)が定めた、地球の
環境容量を表す指標

講師の難波裕扶子さん



「エロロジカル・フッ
トプリント」のデータ
を基に、「現代人は地球
1.7個分の資源を使
っている」と問題提起。
「0.7個分は未来の
子もたちが使うはず
だったもの」「このまま
だと資源はいずれ底を

つき」未来に何をも残
らない」と思告した。
そしてこの状況を、
現代を「上流、未来を「下
流」とした「流しごめ

最後は、一人一人が
できる取り組みとし
て、環境に配慮した商
品を率先して購入する
「エンカル消費などの

延岡
2021/9/11
「SDGs」の目標が「SDGs」
だを説明した。

「に例え、誰もがそ
うめんを食へられる世
の中」持続可能な社
会をつくるための17
の目標が「SDGs」
だを説明した。

複数の班に分かれ
て、SDGs17個のア
イコンを大事だと感じ
順に並べるワーク
ショップもあった。完
成したアイコンの並び
は、「一直線だったり、
Zミット形だった
り、円形だったり」と多
種多様で個性豊か。難
波さんは「これが多様
性」と目を細める。「違
いがあるからこそ美し
く、その違いを尊重し
合うことが大事。SD
Gsは「みんなが主
役」

具体的な取り組みを紹
介。「100人の1歩」
が、国際的な問題を解
決する糸口になると改
めて強調した。
2組の松井照展さん
(10)は「17の目標を
達成するために自分た
ちができることを考え
ていきたい」と感想。
大崎校長は「問題を解
知って、実行に移すこ
とが何よりも大事。そ
のために「自分たちに
何かできるのか、何が
したいのか」これから
の学習を見つけていっ
てほしい」と話してい
た。
5年生はこの後、S
DGsに向け自分がや
らなければならない取
組みをそれぞれまとめ
て、11月に地域の人た
ちに発表する予定。



SDGsの17の目標を学ぶ旭小児童